

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：環境管理センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1. 全学版「安全の手引」を改訂する。また、その他の環境、安全に関する教育資料の充実を図る。 2. 学生、教職員に対して、サステナブル・キャンパスを目指した環境と安全に関する教育を実施する。 3. 各部局における環境教育との連携を図る。	1. 「安全の手引き」を改訂し、配付すると共に、その内容を環境管理センターホームページで公開し、環境安全教育の推進を図った。また、新入生に配付資料「環境安全ガイド」の発行、「化学物質管理の手引き」の改訂増刷、岡山大学環境報告書に関するポスター、チラシを発行して配布した。 2. 平成23年度後期から教養教育科目「サステナブル・キャンパスを目指して」を開講し、学生自らが環境マネジメントや安全衛生指針を理解し、行動できるための知識およびサステナブル・キャンパスを目指した先端技術が展開できる素養を教授した。 3. 学内構成員を中心とした環境管理センター主催のサステナブルセミナーを4月、7月、10月、1月に開催した(参加者数 延べ132名)。 4. 主に理系の実験、実習を始める学生に対して出前講義を実施した(13回、受講者数延べ483名)。 5. 環境管理センター主催公開シンポジウム「震災から学ぶエネルギー対策」を開催し、教職員、学生への災害対策、エネルギー対策に関する教育効果があった。 6. 「省エネ学生サポーター制度」の実施において協力学生への指導を行った。また、省エネ活動の一環である「岡山エコナイト」を共催し、学生の活動に対して指導した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 1. 科学研究費、受託研究費を始め、大型プロジェクト等の競争的資金の獲得に努め、研究基盤の充実を図る。 2. 環境管理センターの研究活動を広く広報することにより、外部との共同研究等の推進に努める。	1. 各教員が環境分野の基盤的、実用的な研究を行い、関連学会で発表または論文にて公表した。 2. 科学研究費や外部資金の獲得を積極的に行い、平成23年度も新規に外部資金を獲得した。さらに、学長裁量経費、施設整備要求、並びに分析機器等の設備要求も積極的に行った。平成23年度学長裁量経費として、「スマート・キャンパス及びサステナブル・キャンパスの創成」が採択され、環境理工学部棟での見える化の試行を行い、基盤の充実に努めた。 3. 「環境制御」を発刊し、前年度の研究活動実績を掲載し公表した。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③センター業務領域	自己評価
③-1 目標 1. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理状況監査、化学物質管理講習会等を継続実施する。また、化学物質管理システムの見直しと普及を実施する。 2. 環境マネジメントシステムの再検討を行い、環境マネジメント委員会と各部局との連携を強化し、省資源化対策、地球温暖化防止対策、省エネルギー対策を推進する。また、環境報告書の充実などを通じて、それらの広報活動、意識啓発活動及び評価活動に努める。 3. 廃棄物管理、排水管理等の環境管理センターが関係する環境法令に関して、講習会等を実施する。	1. 適正な化学物質管理を推進するため、化学物質管理講習会を2回開催した。化学物質管理に関する監査を実施した。書面審査(全部局)及び現地調査(7部局)を行い、化学物質の適正管理の強化を図った。「化学物質管理の手引き」を追加印刷した。 2. 環境マネジメント委員会にて環境目標・目的の点検評価、本学の環境報告書の作成、地球温暖化対策等を協議することにより環境マネジメントの充実と進展を図った。 3. 事業推進等経費により、リユース情報提供システムの再構築を行った。 4. 「環境報告書2011」を企画、作成し、9月に公表した。 5. 事業推進等経費により、学生サポーター制度の試行を行った。 6. 地球温暖化対策説明会を開催し、周知・啓発を図った。グリーン調達の徹底のため、グリーン調達方針説明会を開催した。 7. 実験系廃棄物管理の適正管理を徹底するため、技術指導員講習会を2回開催した。水質管理講習会を開催し、排水管理に関するコンプライアンス啓発を行った。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
④-1 目標 1. 一般市民が参加できる環境・安全に関する公開シンポジウムやワークショップを開催する。 2. エネルギー問題、環境保全、環境改善等に関する技術や知見を広く社会に還元する方策を検討し、学内外との環境コミュニケーションを推進する。 3. 地域行政に関わる審議会や委員会にて、積極的に社会貢献を行う。	1. 環境管理センター主催公開シンポジウム「震災から学ぶエネルギー対策」を開催した。(参加者168名)があり、大震災の情報及び今後のエネルギー対策について、市民及び大学構成員とが一緒に学び検討することができた。 2. 研究成果は、論文、発表会等で広く公開され、社会に還元する方策を提案した。 3. 環境報告書のポスター、チラシを配布し、学内外との環境コミュニケーションの推進に役立った。また、前年度実施した環境報告書及び環境管理センターに関するアンケート結果をまとめ、アンケート調査報告書を発行した。 4. 環境省、岡山県、岡山市の審議会や委員会の委員、また大学等環境安全協議会、UNEP関連等の委員を務めることにより積極的に社会貢献を行った。 5. 本学において、12月に「大学等環境安全協議会総会・研修会」を共催で開催した。全国から240名を超える参加者があり、環境・安全に関する情報発信、情報交換が活発に行われた。また、見学ツアーも企画し、実施した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>平成22年度より準備した教養教育科目「サステナブル・キャンパスを目指して」を開講、学内構成員を中心とした環境管理センター主催のサステナブル・セミナーを年4回開催、省エネサポーター制度の試行、「岡山エコナイト」の共催などサステナブル・キャンパスを目標として掲げ、教育並びに啓蒙活動を活発に行ったことは、高く評価できる。また、センター業務の責務も粛々とした。社会貢献に対しては、大震災の情報や今後のエネルギー対策について、地域住民・行政・大学構成員が一体となって学び考える機会を設定した。多くの参加者の下、熱気あふれる会場となり目標は達成されたと評価する。しかしながら、環境マネジメント委員会と各部局との連携を強化し、省資源化対策、地球温暖化防止対策、省エネルギー対策を全学的に推進するまでは至らなかった。従って、次年度では環境マネジメント委員会の体制を検討し、実質的な行動計画を策定し、上述の対策の成果が得られるように、努力する所存である。</p>	